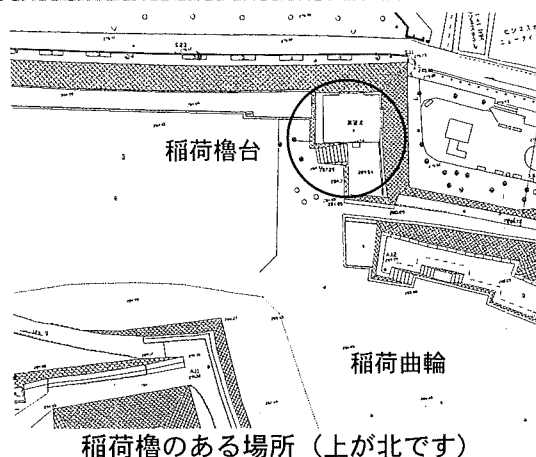


甲府城跡（舞鶴城公園）稲荷櫓台石垣の素顔を探る

現在、山梨県土木部では、甲府城跡（舞鶴城公園）の稲荷曲輪に、江戸時代の寛文年間（1657～1671）頃に建築され、明治時代の初めまであった稲荷櫓を復元する事業を舞鶴城公園整備の1つとして実施しています。

埋蔵文化財センターでは、今年の8月からこの稲荷櫓が建てられる稲荷櫓台を解体し調査しながら、割れている石、傷んでいるところ、悪い積み方の部分を交換する修復工事を土木部と協力して進めています。櫓の完成は平成16年を予定しています。

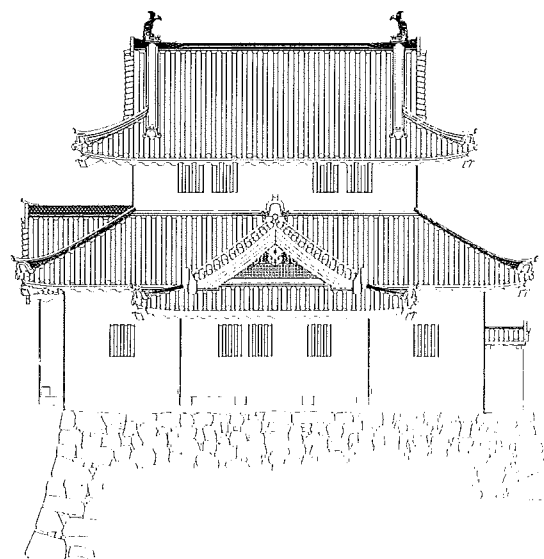


◇石垣の直し方◇

甲府城跡は、戦国時代に全国を統一した豊臣秀吉の命令のもと、その家臣の浅野長政・幸長親子により、今から400年前に造られたと考えられています。城跡を発掘すると、豊臣家や浅野家の家紋瓦（家々のマークの付いた瓦）が発見されていることも証拠の1つです。

今、解体修復をしている稲荷櫓台も、400年ほどまえに自然石を重さの分散や、角度をうまく考えて、丈夫に積んでいく「野面積み」という、当時の最先端の土木技術で積まれた石垣です。そして、当時の技術や歴史を理解することのできる郷土の文化財です。

したがって、現在は解体しながら修復に必要なデータや石垣の傷む原因を調査し、積まれた石垣の雰囲気と特色、当時の技術、そして安全性を考え検証しながら修復工事をしていく方針です。

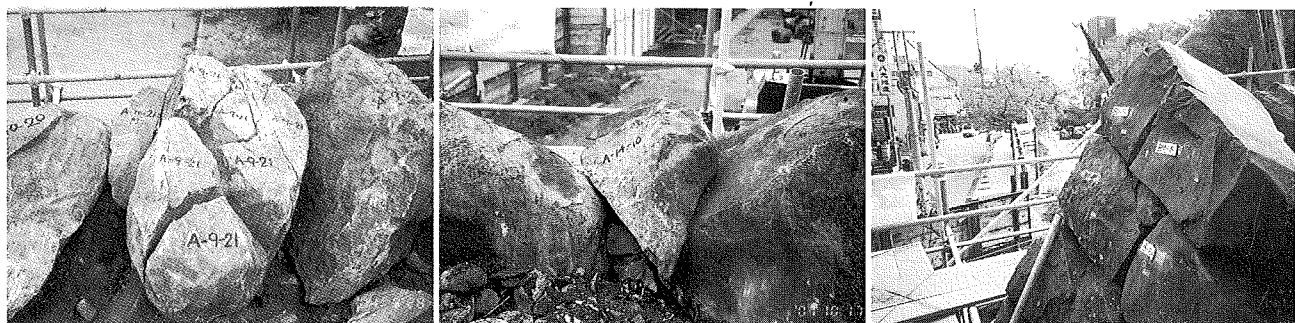
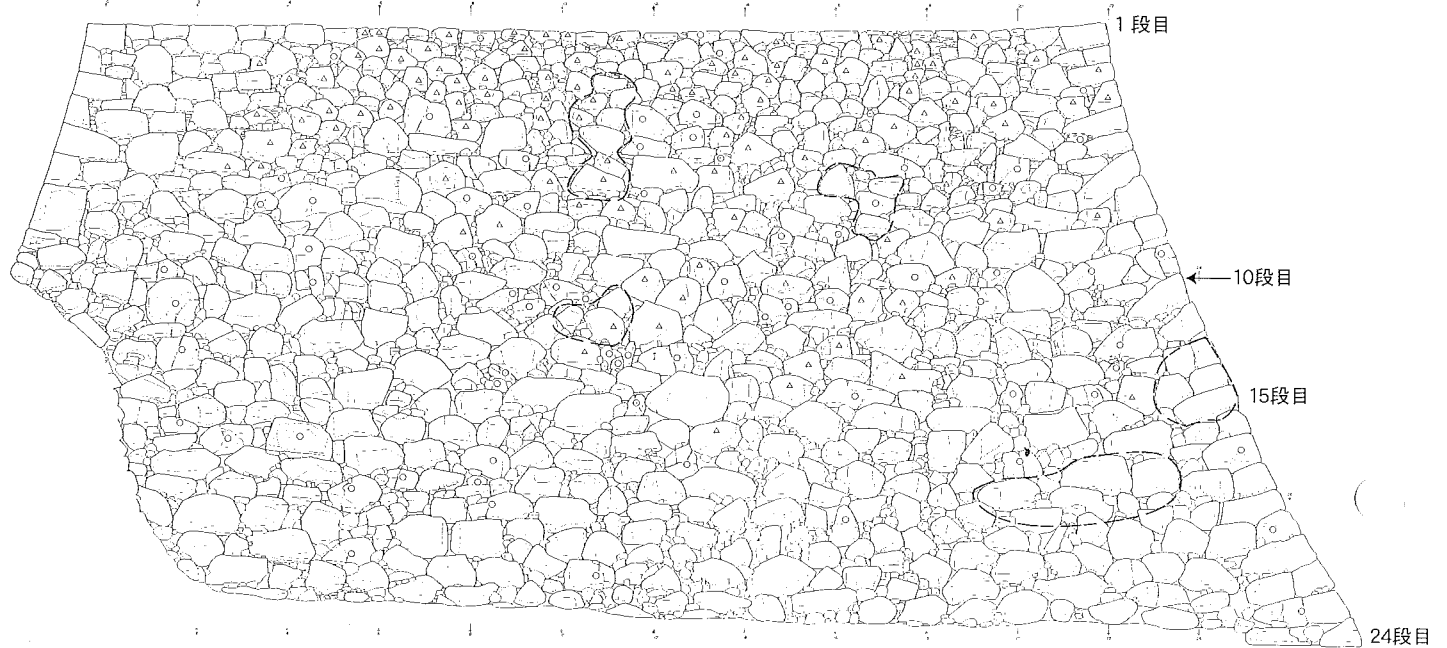


北側から見た稲荷櫓の完成予想図

東面石垣の調査成果

東面の石垣は児童公園に面した石垣です。

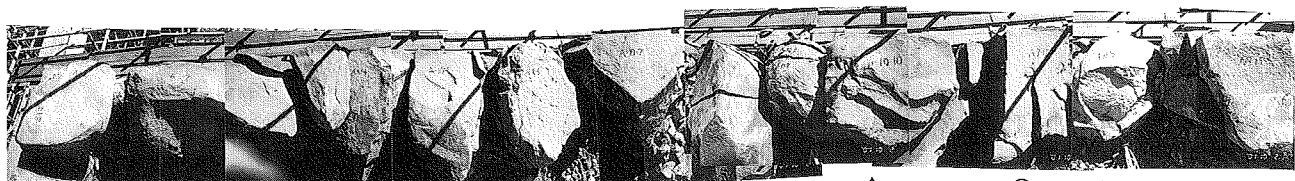
東面石垣の傷んだ部分（○は外側で割れが観察できた石材 △は解体で割れなどの確認できた石材 破線はゆがんだ部分）



風化の激しい石材で粉々になっ
てしまっています

石の長さがなく不安定な形の石
材です

部分的にゆがんで前に飛び出た
石垣の角のところ



東面10段目付近を真上から見た様子（○は外側で割れが観察できた石材 △は解体して割れなどが確認できた石材）

約15段まで解体したところ、437石のうち再び使えるものは221石で216石は割れたり風化したりしているため使うことはできず、石材のすき間や裏側に詰められることとなります。

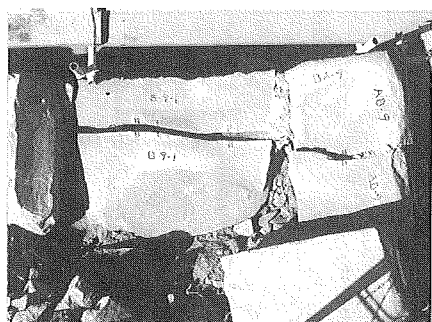
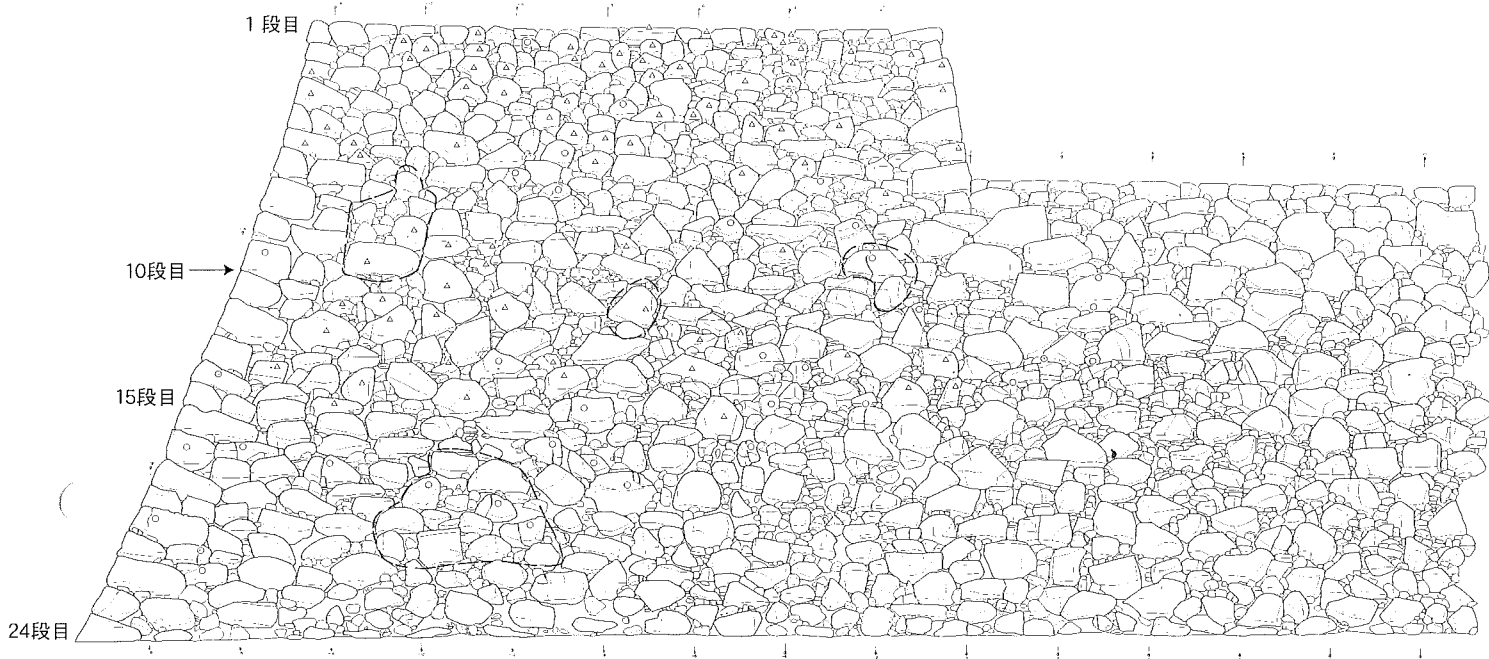


石垣を解体している作業のようす

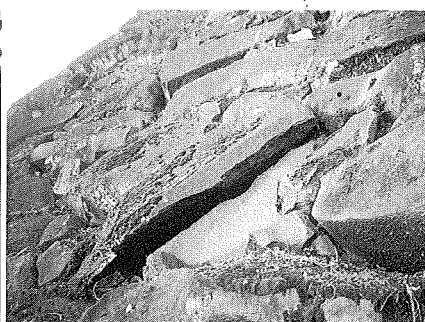
北面石垣の調査成果

北面の石垣はJR中央線に面した石垣です。

北面石垣の傷んだ部分（○は外側で割れが観察できた石材 △は解体で割れなどの確認できた石材 破線はゆがんだ部分）



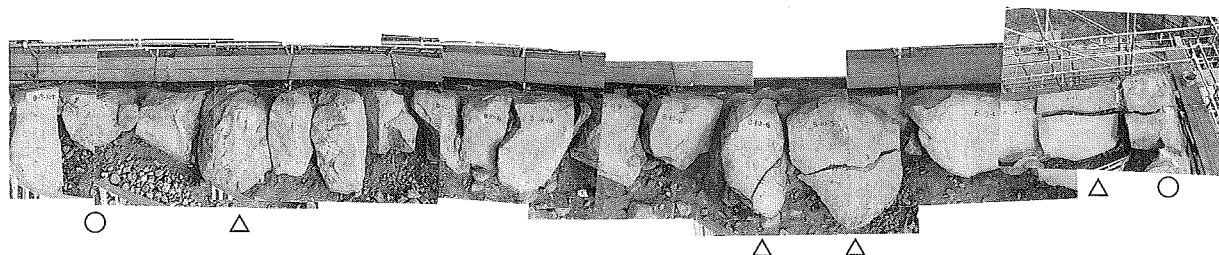
外側で分からなくとも解体で中の割れが判明した石材



表面がはがれ落ちそうに割れている石材



上の重さに耐えきれず大きく割れた石材



北面10段目付近を真上から見た様子（○は外側で割れが観察できた石材 △は解体して割れなどが確認できた石材）

約15段まで解体したところ、428石のうち再び使えるものは268石で160石は割れたり風化したりしているため使うことはできず、石材のすき間や裏側に詰められることとなります。



解体したあと、石材を1つ1つよく観察して、細かな傷や線刻画を確認します。

稲荷櫓台発！いろいろな発見

線刻画で安全祈願！？

甲府城跡からは石材の表面に細い線で刻んで描いた絵などがみつっていますが、稲荷櫓台でも魚や「X」が多くみつがっています。陰陽道の呪符と同じものがあることから、おまじないのため描いたと考えられます。



3つが合体して初めて石垣が完成

石垣が丈夫なのは、石垣自体が強いだけではありません。その後ろの裏栗石がしっかり石垣を受け止め、さらによく叩き締められた盛土が重みを受けているからなのです。この3つが石垣を構成しているのです。

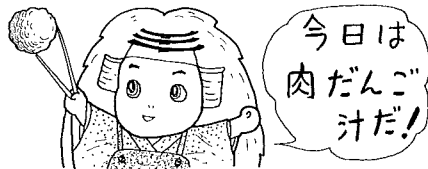
砂こそ強い！

石垣のなかの盛土をみると、大量の砂と粘質土（粘土）で作られていることがわかりました。見た目では、砂はサラサラして弱そうですが、水はけがよく、水分を含んでも体積は変わりません。

一方、粘質土は強そうですが、粒子が細かく、水分を含むと変形してしまうのです。

でも砂だけでは強い盛土にならないので、粘質土と混ぜて最高の盛土を作っていたようです。

QA 教えてシンゲン君!



質問：縄文時代には、シカやイノシシを食べたのにクマは食べなかったのですか。

(甲西町落台小学校 森谷未来良)

「縄文時代の人たちは、いろいろな種類の肉を食べていたんだ。その中にクマの肉も入っているよ。例えば北巨摩郡大泉村にある金生遺跡からはツキノワグマの焼けた骨がみつがっているよ。でもクマはイノシシやシカに比べて山奥にすんでいるから、なかなか捕まえることができなかつたんじゃないかな。イノシシやシカの骨に比べて見つかる量は少ないんだ。クマの他には明野村の清水端遺跡から、焼けたヘビ・鳥・ヒキガエルなどの骨が出てるんだ。山梨県以外ではノウサギ・キツネ・タヌキ・サル・オオカミなどの骨に解体したときの傷が残っていて、食べられていたことがわかってるんだ。また、山梨県ではウサギや鶏は最近まで骨ごと潰して団子にして食べているから、骨が出てこないのかもしれないね。遺跡から発掘される動物の骨は昔の人が食べていたものだけではなく、その頃の環境や動物との関係などを現代に伝えてくれるんだよ。」

編集後記

夜空を見上げると、星が新鮮に輝いています。発掘調査・整理作業ともに佳境に入り、年末に向かって駆け足する日々が続いています。『教えてシンゲン君!』のコーナーへの質問、また紙面に対するご意見、ご要望などがありましたら電話・FAX・お手紙・メールをお寄せください。

maizou-bnk@pref.yamanashi.jp (編集部)

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第10号

発行日 2001(平成13)年12月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL055-266-3016 FAX055-266-3882

印刷 株式会社南堂印刷所